

氏名	菰 口 英 夫		
学位の種類	医 学 博 士		
学位授与番号	甲 第 3 6 2 号		
学位授与の日付	昭和47年 3 月 31 日		
学位授与の要件	医学研究科外科系耳鼻咽喉科学専攻 (学位規則第5条第1項該当)		
学位論文題目	母音の鼻音化に関する実験的研究		
論文審査委員	教授 西 田 勇	教授 中 山 沃	教授 大 内 弘

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

口蓋裂，軟口蓋麻痺などに伴う鼻声は，構音異常，発声異常そのほか多数の二次的因子を包含する複雑，多彩な音声である。本論文は複雑な鼻音化の本質を解明することを目的として，鼻腔を付加した声道の石膏モデルを用いて合成した鼻音化母音につき，鼻咽腔閉鎖度と母音の鼻音化との関連性を音響学のおよび聴覚の見地より追求した。その結果以下の結論を得た。

1. 鼻音化母音の音響学的特徴は extra-resonance (第1フォルマントおよびフォルマント間の成分の増強)，反共鳴および高音域成分のエネルギーの変動の3点に要約される。
2. 聴覚的な鼻音化度と鼻咽腔閉鎖度との関係は母音の種類によって異なり，鼻咽腔間隙が一定の場合，高舌および前舌母音 (イ，ウ，エ) は低舌および後舌母音 (オ，ア) と比較して，より強く鼻音化される傾向がある。
3. 聴覚的な鼻音化度と鼻音化母音のスペクトラム上のひずみの程度との間には，ある程度の相関が認められる。

(日本耳鼻咽喉科学会々報 第75巻，第7号，昭和47年7月掲載予定)

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は，口蓋裂，軟口蓋麻痺などに伴う鼻音化の本質を究明するため，鼻腔を付加した声道モデルを用いて，母音についての鼻音化を音響学的，聴覚的に追求し重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。